

# CHITOSE CENTRAL ROTARY CLUB

Passion & Green & Action. 2007-2008

発行 千歳セントラルロータリークラブ

会長 入口博美 / 副会長 白木松敏 / 幹事 佐々木俊英 / 会報編集責任者 武田伸也

〒066-8520 北海道千歳市本町4丁目4 ホテル日航千歳 1F TEL・FAX.0123-26-5788 ccrc@f3.dion.ne.jp

http://www17.plala.or.jp/ccrc/



## 会長あいさつ

会長 入口 博美

昨日、商工会議所と市長を始めとする部長幹部職員が出席する千歳市との経済懇談会に出席して参りました。千歳市長による「出前講座」があり、夢実現のために市民と行政が情報を共有することが肝心という内容の講話がありました。また、商工会議所からは、中小企業に対する税制金融等の支援を継続、新千歳空港の新ターミナルの増築、滑走路延長の早期実現、その周辺高速道 IC の早期着工、国道 36 号線のバイパス道等の交通アクセスの整備、また固定資産税の軽減等の要望が成されました。非常に有意義な懇談会でありました。

先般、第 5 回目の理事会を行い、2 名の新入会員の推薦を承認し、只今会員選挙を実施させて戴いております。順調に事が進むと、月内に 2 名の新入会員を迎えることになります。

また理事会にて、千歳市が設置する千歳駅構内のカラーコルトン設備更新事業に対し 10 万円の寄付を行うことを決定しております。そして、10 月 23 日には指宿公園で植林事業を行うことを承認致しました。

いよいよ今年度の事業計画が、実践されて参ります。皆様のご協力をお願い致します。

## 幹事報告

幹事 佐々木 俊英

### ■ 緑化推進事業について

大和町の指宿公園に桜の木を植樹することで千歳市と調整を行いました。

植樹実施日を 10 月 23 日(火)とし、当日を移動例会とします。全会員が参加の下、桜の成木を 6 本植える穴を掘ってもらいます。

来春、千歳市が指宿公園の造成工事を終え、市制 50 周年を記念し竣工セレモニーを考えていることから、指宿市からも関係者が来干すると思われます。私たちと指宿 RC との関わり方を、今後どんな形で対応したら良いのかを、皆様に意見を伺いながら推移させて参りたいと思っています。

### ■ 千歳駅カラーコルトン協力事業について

千歳市との調整済みであったカラーコルトン(電飾広告版)の設置事業に、10 万円を寄付致します。寄付のお礼に我がクラブ名がカラーコルトンに掲載されます。9 月 7 日に会長と共に寄付申請を行って参ります。

### ■ WCS 事業について

昨年度、田口地区 WCS 委員より申し出があり、タイ・チェンマイ地区ヘダム建設に対して事業申請・参加をしましたが、今年度も洪水防止用のチェンマイ・チェックダム事業に対して申請致します。5 万円の事業費を支出します。

### ■ 例会プログラムの変更

10 月 2 日(火) いずみ学園知的障害者通所授産施設(いずみワークセンター)を訪問し、パンの製造などを見学し、センター長から卓話をいただき学園の活動を学習します。

10 月 23 日(火) 指宿公園にて植樹作業を行います。

11 月 13 日(火) 千歳駅前周辺で清掃奉仕活動を行います。

08 年 5 月 13 日(火) 支笏湖復興の森の下草刈の作業、及び花見会を行います。

※早速、各例会の担当委員会と詳細調整し、後日報告します。

## 委員会報告

- 長期計画・企画委員会 委員長 高塚 信和  
「クラブ・リーダーシップ・プラン(CLP)について」  
単年度主義では充実した魅了あるプロジェクトが計画できません。我がクラブは 3 年後の創立 20 周年に向けた長期的なプロジェクトを作り、会員増強につなげた魅力あるクラブ作りが大切です。理事会、各委員会、各会員が CLP を理解し、プロジェクト策定と推進に努力、実行することを提案します。

## ニコニコ BOX

- 入口 博美会員: 商工会議所の議員にとなり 15 年。この度、表彰を受けました。

## 本日のプログラム

担当/SAA 委員長 羽生 有三  
会員卓話「ゆとり教育について」

現在日本で叫ばれている格差社会の問題を差し引いても、まだ日本人のほとんどが最低限度の生活をする事ができています。

これはやはり教育の成果によるところが大きいと私は考えます。この社会水準を維持するなら、どうしてもゆとり教育の発展的な改革が欠かせないはずです。もし現在のままゆとり教育を続けるならば、少ない収入の中でも慎ましく生きていこうとする覚悟が必要です。

私は生きている以上、ある程度は豊かな生活をしたいので、学力低下に歯止めをかけるために子供の時間的余裕を減らし勉強に向けさせるべきだと思います。

そもそも、子供時代に「ゆとり」は必要なのでしょうか？  
勉強に限らず、子供の内に何かに打ち込むものを持っていた方が、社会に出てからも強いのではないのでしょうか？  
子供は上から押さえつけられないと、ゆとりどころか怠けるだけなのではないのでしょうか？  
もちろん、精神衛生を保てる範囲のゆとりや心の余裕は必要だと思いますが、小さいうちに楽をすると、その後の人生で取り返しのつかない「サボリグセ」がついてしまうと私は思います。

ゆとりが必要なのは、仕事をリタイアした年金生活者であると思います。  
今現在、子供は甘やかされ、老人はますます厳しい生活を強いられている現実は皮肉な話です。